

第52回散策路の会活動報告

日時：2011年6月26日（日）13：30～16：00 天候：晴れ

参加者：岩崎三郎、大屋進、奥田せい子、小坂泰子、長山達男＝計5名

作業内容：①杭作り——森の中から探し出した倒木1mに切る。その樹皮を削り取り。次回使う杭20本作成。
②草刈——田んぼからカエル池までの御所川沿道。岸から離れた草原の道。

杭作り（切った丸太の樹皮を削る）



夏草刈り



「でんでんむし」の会と懇談

6月24日（金）13：30 広町広場集合

参加者：「でんでんむし」8名

散策路3名

青空保育「でんでんむし」と懇談をし、散策路について利用者の立場からの意見を聞く。詳細は別添します



を

次回の作業内容

7月10日（日）9時～12時

- ①小竹ガ谷にあるU字溝運び。ベンチの足にする。
- ②ウサギ山、展望台ベンチの修理、垣根の補修
- ③杭作り

出席者：保育者一鶴川。大山組一福田、石丸。 小山組一馬場。 里組一馬場、柿崎、金子、鳶峰
散策路一大屋、奥田、小坂、 豊田（オブザーバー）

「でんでんむし」の要望と散策路の会の回答（赤字）

1、散策路に関する意見

①測量杭が危険。もう少し埋められないか

——15センチ四方の赤杭、10センチ四方黄杭、5センチ四方の黄杭など地下60cm埋めてある。
昭和17年頃埋めたものだ

市の回答

これは赤道^{あかみち}の印であり、測量のしたときに埋めた杭である。これを撤去することも触ることもできない。杭の周りの土をかさ上げし、積むしかない。または入り口に看板を立てて注意を促す
——実施設計で市に検討依頼する。それまで動かさない
——できるだけ杭を避けて道を迂回させることで対処する。また親が子供に注意を促すよう依頼

②ロープ

- ・ロープの色が黄と黒の模様のトラロープは見た目がよくない。自然の中で違和感のない色にしてほしい——トラロープは丈夫で、危険への注意を促すのに必要である。グリーンロープも検討してみる。ロープよりも木の枝を使って垣根にすればどうかとの提案あり。
- ・子どもにとってロープは危ない（カエル池から石切り場）。ロープはなるべくつけないでほしい。
- ・杭とロープが多い、子どもの背丈と同じで危ない（きはち窪）
- ・ロープがあると子供が頼ってつかむので弛んでいると危ない——ロープの緩みはチェックして、しっかり張ることにする

③階段

- ・階段にせず、自然のままで残してほしい（石切り場への道）。階段はなるべく作らないでほしい
- ・浄化センターへ降りる階段は立派すぎる。違和感がある。通ってはいけない場所ではないか
——未買収の土地になるので、土地所有者と市との市民緑地制度契約により、市が市民の要望に応じて階段を業者に依頼して作ったものだ。
- ・階段を支えるネジがぶつかったとき危ない——鉄棒採用は控える

④鉄板は応急的措置なのか否か知りたい。鉄板は不燃、広町の木を使ってほしい。——鉄板は保全前から泥んこ道に応急手当として使われていた。とりあえずこれで間に合わせている。できれば木を使いたい

- ・木の板が濡れていると滑りやすい——板に滑り止めを施したい

⑤峯山のベンチ、ウサギ山のベンチがぐらぐらで危ない——補修する

⑥広場のブランコ下、ガラスの破片がある。土に埋まっているが危ない——危険なものは自分達でも除去してほしい

- ・粗大ごみが溜まっている。（桐の大木のところ）
- ・広場の自転車置き場、自転車の乗り降りに危険。地面を平らにしてほしい——平らのところに駐輪し、また自転車は広場の中の端に駐輪してよいのではないか

⑦立て札が多いが的確でない——実施設計の中で論議することになっている。そこで実情に合わ

いものは撤去する。今は撤去する権限はない。

- ⑧その他・物置裏の橋下のコンクリート、落ちたとき危ない——その後即壊して撤去した
- ・提案——私達で麻などでロープを作って使えばどうか——検討してみる

2、森全体に対する要望——森の会に伝え、処理は森の会に委ねる

- ・倒木心配（二本橋への小道）
- ・森林伐採は最低限にしてほしい
- ・笹の切り口が斜め鋭角に切っている。非常に危ない

以 上